

# ヴェルヌ『グラント船長の子供たち』下巻のメモ

takaidos

*Les Enfants du capitaine Grant* “In Search of the  
Castaways”  
(A Romantic Narrative of the Loss of Captain Grant of the  
Brig Britannia and of the Adventures of His Children and  
Friends)

ジュール・ヴェルヌ(1828-1905)。  
1868年(ヴェルヌ40歳)発行。

大久保和郎・訳。  
1968年発行(2004年復刊)。

★★★★

<目次>  
(上巻からのつづき)

### 第2部

12. メルボルン・サンドハースト鉄道
13. 地理学者の優等賞
14. アレクサンダー山の金鉱
15. オーストラリアン・アンド・ニュージーランド・ガゼット紙
16. 少佐、あれは猿だと言い張る
17. 大金持ちの牧畜業者
18. オーストラリア・アルプス
19. 局面一転
20. アランド・ジーランド
21. 不安の四日間
22. イーデン

### 第3部

1. マクオリー号
2. これから行く国の歴史
3. ニュージーランドの虐殺
4. 暗礁
5. にわか仕立ての水夫
6. 食人の理論的考察
7. 逃げるべき陸について上陸する
8. この国の現状
9. 北方8キロ
10. 民族の河
11. タウポ湖
12. マオリ人酋長の葬式
13. 最後の数時間
14. タブーの山
15. パガネルの非常手段
16. 挟み討ち
17. ダンカン号がニュージーランドの東岸を遊弋していた理由
18. エアトンかベン・ジョイスか
19. 取引
20. 夜の叫び
21. タボル島
22. ジャック・パガネルの最後の粗忽

### <登場人物>

エドワード・グレナヴァン:スコットランド名門。ハイランダー。マルカム城城主。マルカムの領主、ラス村の殿様。  
レディ・ヘレナ:グレナヴァン夫人。スコットランド人。大旅行家ウィリアム・タフネルの娘。  
マクナブズ:少佐。グレナヴァンの従兄弟。  
メアリ・グラント:ハリー・グラント船長の娘、16歳。  
ロバート・グラント:同・息子。12歳。

ジョン・マングルズ:ダンカン号の船長。30歳。  
トム・オースティン:ダンカン号の老練な航海士。  
ミスター・オルビネット:ダンカン号のコック。  
ミセス・オルビネット:ヘレナの侍女。  
ジャック・パガネル:パリ地理学会書記。フランス人。40歳。  
ウィルソン:屈強な航海士。スコットランド人。  
マルレディ:ボクシング経験ありの航海士。スコットランド人。

トム・エアトン:グラント船長の『ブリタニア』号のクォーターマスター(操舵手)。一級水夫。45歳。実はベン・ジョイス。

トリネ:ラクラン地方出身のオーストラリア原住民の子。8歳。

JDミッチェル:鉄道監督官。

サンディ・パタスン:ロンドンの銀行家の息子。青年。スクウォッター。ホッタム・ステーションの住人。

マイクル・パタスン:同上。

ウィル・ハリー:マクォリー号の船長。でっぷり赤ら顔で無教育。オーストラリア-ニュージーランド間1600kmを沿岸航海。

カイ・クム:一行を捕虜にしたマオリ人の酋長。

カラ・テテ:カイ・クムと同格の酋長。

トホンガ:原住民の大祭司。

ハリー・グラント:ロバート、メアリの父。沈没したブリタニア号の船長。ダンディーの領主。

ボブ・リアス:ハリー・グラントと共にタボル島(マリア・テレジア礁)で漂流生活を送っていた船員。

ジョー・ベル:同上。

<あらすじ>

1864年。

12月28日:

エアトンが蹄鉄工を連れて来て牛車を修理しグレナヴァンの馬に蹄鉄を装着。  
一行はすぐに出発した。

12月29日:

地方自治体カールズブルック町。

エアトン、迂回すべきと提案。

キャムデン・ブリッジの鉄道事故に遭遇。

グレナヴァンら植民地鉄道監督官ミッチェル氏と警部と会う。

パースから脱走した流刑囚のうわさを聞く。

鉄道を上手で横切る。

12月30日:

原地民の墓場でトリネ少年を発見。

パガネルと地理問答をする。

12月31日:

朝、トリネが居なくなっていた。

起伏の多い土地を一日中歩く。

1865年:

1月01日:

アレクサンダー山・採掘場。

「ジャンピング」24時間休ませていた採鉱場はすべて公共の所有になる。

旅館。

1月02日:

産金地方の限界とタルボット郡の境をこえた。  
コルバン河とキャンパス・リバーを渡る。  
人々がカービン銃で武装している危険地帯に入る。  
高さ60mのユーカリの木。ユーカリの並木。  
パガネル「日光から身を守るために葉が太陽光線に側面を見せている。」

1月03日:

延々とつづく林を抜けて行政教区シーモアの町に到着。  
キャンベルズ・ノース・ブリティッシュ・ホテル。  
オーストラリアン・アンド・ニュージーランド・ガゼット紙の記事。  
。「先日の鉄道事故は脱走囚人による犯罪。囚人29人はベン・ジョイスという悪漢に率いられている。」(調査部長JDミッチェル)

1月04日:

マレイ地区の境界線上で野営。

1月05日:

広大なマレイの領域へ。  
武装を整えて東進してトゥー・フォールドベイの海岸に向けて出発。  
。イギリスによる原住民や黒人虐殺の歴史の話。  
原地民30名ほどの集落に遭う。  
戦闘の踊り、ブーメラン、エミュー(無冠ヒクイドリ)の刈りを見物。  
。

1月06日:

森でスクウォッターのパタスン兄弟と会い、自分たちのホッタム・ステーションの邸宅に案内される。  
12時間当地で休憩。  
狩猟、晩餐会、音楽会も行なう。  
動物:ウォンバット、バンディクート、ヴヴェリン・ダシュア、オポッサム、カンガルー。

1月09日:

オーストラリア・アルプスの峠。  
宿屋&居酒屋「ブッシュ・イン」でベン・ジョイスの懸賞金付き貼紙を見る。  
マルレディの馬が頓死。

1月10日:

ギプスランドの高原で野営。

1月11日:

降りに入る。  
霰が激しく降って来て岩場に隠れる。

1月12日:

エアトン、再びダンカン号を海岸へ廻航するように献策。  
少佐が強く反対して却下。  
ダンカン号とはトゥーフールド湾で合流することにする。

高さ9mの奇妙な羊歯の林。  
パガネルの馬が頓死。  
ウィルソンの馬と牛2頭も頓死。  
スノウィ河を目指すが途中で牛たちがぬかるみにはまり、そこを宿営地にする。  
少佐、夜中に目を覚まし隠花植物の発光を見つける。  
燐光の先を追うと何人かの男たちが接近して来るのに気づく。

雨が激しくなり牛と馬を見に行くと、また頓死していて残ったのは牛2頭と馬1頭だけになっていた。

スノウィ河は河幅1.6kmで流れの速い河だった。  
エアトンは400kmほど後方(西方)メルボルンで修理済のダンカン号を誰かが馬で呼びに行き海岸で合流するように献策しエアトン自身が1週間で往復するというと少佐もなぜかそれに賛同する。  
グレナヴァンが船にいるトム・オースティン宛に命令書を書きエアトンの名前を書いたところで少佐が「ベン・ジョイス」というとエアトンはグレナヴァンを撃って逃げる。  
一行はくじ引きでダンカン号に救援を求める使者を立てることにし、マルレディが選ばれる。

ラクノー街道を通過してマルレディはメルボルンへ向かうがしかしやはりベン・ジョイス一味に待ち伏せされて刺され、ダンカン号への命令書と最後の馬を奪われてしまう。  
なんとか牛車に戻ったマルレディは一命を取り止めるが、ベン・ジョイスがダンカン号を奪おうとしていること、囚人たちがスノウィ河を渡ってダンカン号と合流するつもりであることを打ち明ける。

果たして囚人たちはケンプル・ピア橋(藤蔓の橋)を使ってスノウィ河を渡ると焼き落としてしまうのをジョン・マングルスとパガネルは目撃したのだった。

1月16日:

一行はなんとしてもスノウィ河を渡り、50km先のデレゲイドの町(ニューサウスウェールズ州の境)へ行き輸送手段を見つけなければならなかった。  
グレナヴァン、ジョン・マングルス、スノウィ河の渡河方法を検討。  
ゴムの木で小舟を作るが転覆。

1月19日:

1月20日:

ベン・ジョイスが馬と手紙を奪って5日経過。  
絶望感が募ってくる。

1月21日:

スノウィ河の水位が下がる。  
筏作りを開始。

1月22日:

筏が完成したので全員で渡河。  
対岸の藪に何とか掴まるも物資や銃はほとんど流される。  
マルレディはユーカリの枝の担架で運ぶ。  
野ガンの巣で卵を見つける。

1月23日:

食べ物はスベリヒユの若嫩(若葉、双葉)だけ。  
砂礫の多い平原→ブラ・ブラ山。  
植物:スピニフェックス(棘のある草)。  
動物:マス・コンディター。

1月24日:

植物:セファロート(珊瑚状の灌木。蓋つきの葉から水を得られる)、ナルドゥー(隠花植物)。

1月25日:

ニューサウスウェールズ州の州境で野営。  
デレゲイドの町まで16km。  
植物:アルミナ成分を含んだ燃えない薪。

1月26日:

デレゲイドの町に到着。  
トゥーフールド湾は80km先。  
郵便馬車に乗ってトゥーフールド湾へ。  
さらにそこから8km離れたイーデンの町へ行くがダンカン号の姿は見えなかった。

メルボルンの船舶仲買人組合理事に問い合わせると「ダンカン号は1月18日に出帆、行先不明」と返信があった。。。

トゥーフォールド湾でビクトリア・ホテルに宿泊。  
イギリスに帰るための船を探す、パガネルがニュージーランドのオークランド経由で帰ることを提案する。  
そこでニュージーランド行きの船を探すと、ウィル・ハリー船長の商船マクォリー号があったので50ポンドで乗せてもらうことにする。

少佐は両替屋でグレナヴァンの持っているメルボルンのユニオン・バンク引き出しの手形を割引させて、その金で銃やニュージーランドの地図を買う。  
最後にもう一度トゥーフォールド湾に囚人たちの証跡が無いか見て回ると囚人の仕着せが脱ぎ捨てられている所があった。

1月29日:

マクォリー号、オークランドへ向けて出航。  
パガネル、ニュージーランドの探検の振り返る(ニュージーランド探検の歴史①)。

1月31日:

マクォリー号、ニュージーランドまでの行程の3分の2も進まず。  
船長も船員も酔いどれていて、ウィルソン、マルレディたちはイラつく。  
パガネル、原住民による食人の歴史を回想(ニュージーランド探検の歴史②)。

2月02日:

雨のため甲板室にこもる。  
マクォリー号はついに暗礁乗り上げてしまい、ウィル・ハリー船長は保険をかけていない積荷を心配して「俺は破産だー！」と喚き、船員は火酒飲んで襲いかかって来ようとした。  
気がつくと船から脱出するための小ボートが無くなっていた。  
船長たちは一行を置き去りにして逃亡してしまった。

次にマストを切り倒して、空樽と組み合わせて筏を作って海に出る。

パガネル、原住民の食人習慣の話をする。

2月05日:

一行は積荷の樽を捨てて船底の穴を塞ぎ、錨とウィンチを利用して船体を暗礁から引き離そうとするが失敗。

上陸した一行は暴風雨を花崗岩の洞穴でやり過ごす。

パガネル→一行に講義。

ニュージーランドの現状①。  
ニュージーランド探検の歴史③

2月07日:

一行はカファ岬→オークランド128kmの踏破に向けて出発。  
ワイカト河沿い。  
24km歩いてハカリホアタ山脈の手間でキャンプ。

過酸化鉄、酸化第一鉄の砂。

動物:アザラシ、大鼻アザラシ(体長7.5~9m/石を食べて潜る重しにする)、牡蠣、アホウドリ。

昆虫:シガム(砂バエ)

2月08日:

ワイパ河とワイカト河合流点まで24km。  
その合流点から8km手前で野営。  
ンガルヴァヒア村が近いがマオリ人の村なのでそこへ行くのはやめる。

植物:羊歯類、禾本科植物、繖形科植物(セリ科)。メトロシデロス、

ノーフォーク杉、コノテガシワ、リム(糸杉)。

野鳥:カリカリ、タウポ、ネストール・メリディオナル、タシギ、シャコ、トウイ、キウイ。

2月09日:

一行は寝ている間にマオリ人たちに捕まり、脚を縛ってゴンドラ船に乗せられる。

彼らを捕まえたマオリ人酋長カイ・クムはイギリス軍と戦ったあとワイカト上流の地域に帰るところだった。

河を遡って野営地で宿泊。

野鳥:三種のアオサギ、マトウク、コトウク、コタレ、ヤツガシラ、ラレック、ポリフィリオン(青いバン)。

植物:羊歯の根(Petris esculenta)、馬鈴薯。

2月10日:

他の船と合流しキャンプ中央に監視されながら宿泊。

2月11日:

狭い谷、酸化鉄を含んだ岸边、強烈な硫黄の臭い、白い湯気、間歇泉、蒸気のアーチを抜けて、ワイカト河とワイパ河の合流点から160kmの地点で野営。

2月12日:

タウバラ山を右岸に見る。

舟で遡ってタウポ湖に到着。

原住民たちは小屋の国旗の敬礼。

マオリ人の砦には敵のものと思われる首が飾られてあった。

一行はカイ・クム酋長の小屋からフレアトゥアに移される。

ヘレナは隠していた拳銃をグレナヴァンに渡していざという時は自分を撃ってくれと頼む。

そこにカイ・クムとカラ・テテが来て、白人に捕まった大祭司トホンガとの捕虜交換の可能性をグレナヴァンに尋ねる。

しかしカラ・テテがヘレナを奪おうとしたのでグレナヴァンは拳銃でカラ・テテを射殺し騒ぎになる。

「タブー！！」とカイ・クムが原住民たちを制止する。

一行が処刑される可能性は高まった。

パガネルとロバートはこのどさくさの中で姿を消す。

地理:タウポ湖、トンガリ口山、ルアパフ山、タラナキ、エグモン  
ト山、ワイカト河、ワイパ河。

植物:フォルミウム(亜麻)、

野鳥:ミツスイ。

2月13日:原住民たち、喪に服し始める。

2月15日:原住民たち、出て来て砦に集まる。

メアリ・グラント、ジョン・マングルスにいざという時は自分を殺すように頼む。

大祭司トホンガが白人に殺されたという知らせが入り、一行の人質としての価値は無くなり殺されることが決まった。

カラ・テテの妻がカイ・クムに殺されていっしょに埋葬される準備がされ、カラ・テテの奴隷たちは殺されて原住民たちに食べられてしまった。

カラ・テテと妻の遺体はマウンガナム山の頂に運ばれ、墓に納められる。

山は葬儀のとき以外は禁忌の場所となった。

2月16日:

フレアトゥアで死を待つ一行のところに凝灰岩に壁に穴を掘ってロバートが現れる。

一行は穴を拡げて脱出し偶然、禁忌のマウンガナム山に登る。

原住民たちは禁忌の場所に上がってこれなかった。

頂のカラ・テテの墓に行くとなんとそこにはパガネルが居た。  
パガネルは酋長ヒヒの家に飛び込んで、眼鏡と望遠鏡を気に入られ、縄繋がれていたが、葬儀のあとマウンガナム山が禁忌の場所になったので逃げて来たのだった。  
墓にはお供え物やカラ・テテの生前の武器も置いてあったので失敬する。

2月17日:

パガネルは脱出するために火山であるマウンガナムの頂付近に穴を空けて噴煙を上げる。  
そしてこの噴煙に紛れて自分たちが死んだと思わせて脱出する策を実行に移す。

2月18日:

噴火口は溶岩を吹き出し、麓の砦を焼いていた。  
一行は原住民たちの動きを監視し、夜移動開始。  
そして脱走に成功する。  
タウポから宣教師たちが施設を持つ東海岸プレンティ湾までの160kmを踏破することに決める。

2月19日:

2月20日:硫気孔。硫黄噴出地帯。

2月23日:

マウンガナム山から80kmの地点に達する。  
無名峰に「マグナヴァン」と名付ける。

2月25日:

ワイカル河に到達。  
ユーカリの代わりにカウリという巨木が生える森林を通過。  
植物:カウリ。

3月01日:

巨鳥モアらしき鳥を見つけて追うが逃げられる。  
イキランギ山の麓に出る。

やっと海岸に出るが原住民たちに追われ、舟を見つけて沖に出るが、なんとベン・ジョイスら奪われたはずのダンカン号が現れる。

しかしダンカン号はトム・オースティンの指揮下にあり、一行は無事救われる。

オースティンは1月24日付けのグレナヴァンの手紙を受け取ったがそこにはオーストラリア東海岸でなく「ニュージーランド東海岸に行け」と書かれていたという。  
代筆をしたパガネルがうっかり間違えたのだった。  
そしてエアトンはオーストラリア東海岸と主張して暴れたので船室に閉じ込めてある、という。

エアトンを呼んでグラント船長の居場所について訊くがなかなか口を割らない。

3月05日:

ヘレナの説得でようやくエアトンはグレナヴァンと取引をすることになった。  
エアトンはイギリス官憲に引き渡さずどこかの無人島に置いて行かなら知っている限りのことを話すという。  
約束したが、結局エアトンは先にオーストラリアに降ろされていたため、どこでブリタニア号が沈んだのか分からないのだった。

一行は太平洋横断航路で帰路に着く。  
途中、マリア・テレジア島で灯りが見え、ロバートとメアリが揃って海から人の叫び声を聞く。  
それは父親の声だった。  
翌日島の海岸にイギリス国旗が翻るのを見る。  
2人はグレナヴァンらとボートで海岸へ行くと、グラント船長と2人



の水夫に出会えたのだった。  
船長たちは2年の間このマリア・テレジア島(タボル島)で暮らして助けを待っていたのだった。

3月07日:一行はエアトンの改悛を期待して物資や武器も置いてエアトンを島に残して帰途に着く。

3月18日:  
アメリカの沿岸、タルカウアノ湾に寄って補給。

5月10日:  
ダンカン号はクライド湾に帰港。  
メアリとジョン・マングルズは9ヶ月後に結婚の予定。

マクナブズ少佐、従妹のミス・アラベラをパガネルに紹介。  
2人は結婚することになる。

ハリー・グラントはグレナヴァンの賛助を得て太平洋にスコットランド人の植民地を建設する計画を再開した。

<メモ>

☒☒オーストラリア  
・スクウォッター:Squatter. 地にうずくまる人。家畜を飼養する人。  
・セトラー:主に農業に従事する人。

☒☒P.84、P.123  
”一八日のうちに”の意味不明。→ ”一両日”のことか。

☒☒単語  
アリキ:ニュージーランドに神父。  
ロンゴ・パイ:福音。  
ウドウパ:霊廟・墓。  
パー:砦。  
ワレアトウア:神聖な家。  
アヴィキ:聖職者。  
ヌイ・アトウア:原住民の神の名。  
パケタ:白人。  
ワイドウア:死者たちの霊。

☒☒ニュージーランドの神→父と子と鳥(聖霊)の三位一体。

☒☒ニュージーランド探検の歴史①  
1642年:オランダ人アベル・タスマン、ニュージーランドヴァン・ディーメン島に上陸。  
イカ・ナ・マウイ(北の島)。  
原住民と友好関係を結べそうだったが突然襲撃を受けて6人の部下のうち4人が殺されてこの地を離れる。  
100年後、フランスの航海家シュルビル、ニュージーランド避難湾酋長ナギ・タイにもてなされるがボートひとつが盗まれ、村を焼き払う。

1769年、イギリス人クックがエンデバー号でタウエ・ロアにやって来てヶ月滞在して帰る。  
1773年、クック、原住民の食人の場面を目撃する。  
1777年、3回目の来訪をして去る。

1805年、酋長ランギ・フーの甥で聡明なドゥア・タラがイギリス船アルゴ号に乗ってロンドンに行くが船員たちが彼を黽り者にし、ニュージーランドに帰ったあと1814年に28歳の若さで死んでしまった。  
1827年、イギリスの捕鯨船が原住民による掠奪と殺害に対して抗戦。

1827年、デュモン=デュルヴィル、武器なしで贈物と歌の披露で平和裡に現地の測量作業をして地図を作成。

→原住民との関係は船長の良し悪しに寄った。

1814年、ドゥア・タラに保護者だったイギリス人が鉄の斧12挺でアイルランド湾の土地を買い、イギリス国教伝道会を設立。当地の原住民は次第に教化される。

しかし放浪性の原住民はおとなしいオーストラリア原住民と違いヨーロッパ人に抗戦を続けている。

## ☒☒ニュージーランド探検の歴史②

1772年5月11日。

フランスの艦長マリオン(マスカラン号)とクロゼ艦長(カストリ一号)、アイルランド湾に到着。

酋長タクリ(実は村を焼かれた酋長シュルビルの親戚)と親交を結ぶ。

お互いに艦と村を行ったり来たりする仲になる。

水を補給して新しいマストを作るためにしばらく駐留する。

6月12日、マリオン以下17人のうち16人が工事場に出向いて突然惨殺される。

クロゼ艦長は部下を鎮めつつ沿岸に艦を離す。

フランス兵、モトゥ・アロー村の酋長以下村民を惨殺し村を焼き払った。

1ヶ月ほど滞在してマストを再建。

マリオンを殺した証拠品を集め、裏切者タクリの村を焼き、仲間の遺体を葬った。

7月14日にフランス艦隊は当地を去った。

そのほか4件の食人事件。

## ☒☒ニュージーランドの現状①

1642年タスマンが来た頃は原住民はそれぞれ独立した島で自由を保っていた。

その後、いろいろな地点に居を構えた宣教師たちがキリスト教文明を広める。

キリスト教の中でもイギリス国教会は酋長たちをビクトリア女王の支配下に置こうと画策していた。

服した酋長は女王の庇護を求め手紙に署名。

服さない酋長は「われわれは国を失った。やがて外国人がこの国を奪いに来て、われわれは奴隷になるだろう」と手紙に残した。

1840年1月29日:ホブスン大佐がイカ・ナ・マウイのアイルランド湾に来て、女王からの委任状を読み上げた。

1841年1月05日:ホブスン大佐、イギリスから軍隊と軍艦が派遣され、原住民を服従させようとする。ただし「地所はビクトリア女王のものになるが原住民の権利は保障され自由は全く損なわれない」という条件で。

酋長たちは同意を拒んだが事実上イギリスに領有されることになった。

1845年、原住民による最初の叛乱が起こる。

1860年、タラナキ州の土地の売買を巡って酋長キングが抗議して土地を柵で囲うとイギリスが部隊を投入してそれを撤去。

1863年末頃、ふたたび叛乱。ワイカト河上流に原住民の要塞。

その後9つの植民地が建設された。

北の島:

オークランド州

タラナキ州

ウェリントン州

ホークス・ベイ州

南の島:

ネルスン州  
マールバラ州  
キャンタベリ州  
オタゴ州  
サウスランド州

1864年6月30日現在で全人口18万346人。町や都市も発展して来た。港、大寺院、銀行、ドック、植物園、科学博物館、動物保存協会、新聞社、病院、慈善施設、哲学アカデミー、フリーメイスン支部、クラブ、合唱協会、劇場、万国博覧会会場、鉄道もあった。イギリスは原住民と戦争をやりながらこうした建設をして来た。パガネル「工夫たちは機関車の上から鉄砲を射っている。」

1860年からの戦争の経緯:

原住民・民族主義派はマオリ人首長を立てるために老ポタトゥを王にする。

老ポタトゥはイギリス占領以前にウィリアム・トンプスン(オークランド/ンガティハファ族後裔)を首相に任命。

トンプスはタラナキの部族をひとつにまとめあげ、ワイカトの酋長を加えて「ランド・リーグ」という同盟を結成。

この同盟でイギリスによる占領に抵抗している。

マオリの人口減少。

クックの頃1770年ごろは40万人、1845年には10万9千人。

人口減少の原因は虐殺、病気、火酒。

9万人の原住民のうち3万人は戦闘的。

ニュージーランド原住民はイギリスの軍隊に対してよく戦って来た。

。パガネル「しかし正しい権利は必ずしも常に優れた武器を持っているわけではない。」

キャメロン将軍、ワイカト地区を占領・帰順。マオリ人逃亡。

カリー准将、オラカン砦を包囲、マオリ人包囲を突破して脱出。

イギリス、タラナキ州ウィリアム・トンプスンの砦の包囲を決定、総督と将軍がタランガ部族の帰順を了承。

トンプスン降伏を検討という噂。

現在タラナキとオークランドの両州で戦争が行われている。

→ここまでがパガネルが1865年2月現在までに知っている流れ。

☒☒ニュージーランド探検の歴史③

測量技師ウイトカンブ。

測量技師チャールトン・ハウイト。

1863年。

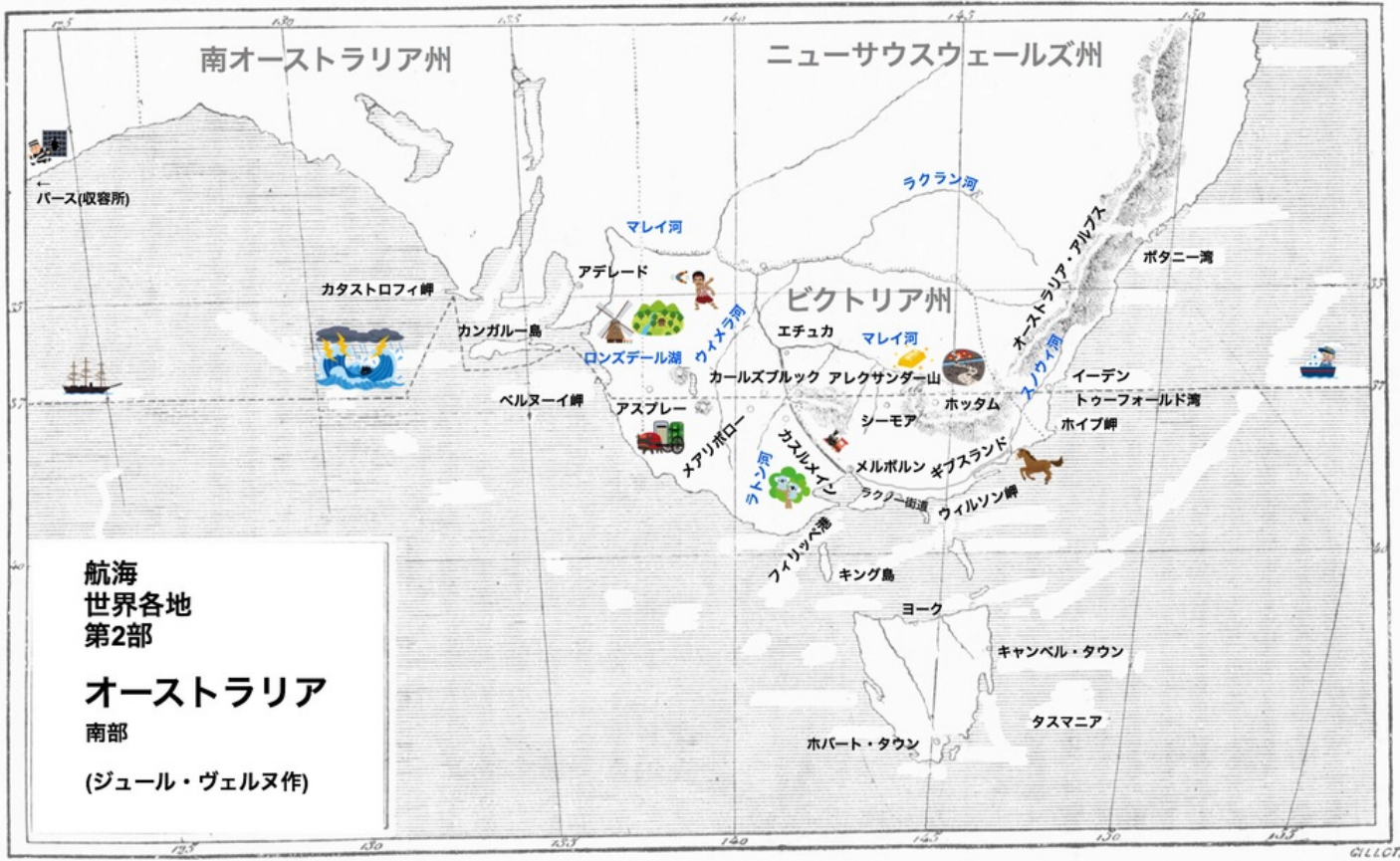
ウイトカンブとジェイコブ・ラウパー、ブラナー湖を基地にしてキャンタベリ川の北部山岳を越える通路を探そうとして失敗。

ハウイトはティンダル山の東へ通じる通路をラカイア溪谷の中に発見。

ジェイコブ・ラウパーも迎えてブラナー湖を横切ったか行方不明になったまま。

☒☒タボル島=マリア・テレジア礁

今は幻島。





航海図  
世界各地  
第3部

# 太平洋

(ジュール・ヴェルヌ作)